

「まちづくり型福祉」

NPOの役割考える

知多で行政と意見交換

知多市のNPO法人「地域福祉サポートちた」は5月28日、「NPOと行政との意見交換会」を市民活動センター(緑町)で開いた。知多半島4自治体の職員やNPO法人関係者ら約40人が参加した。



まちづくり型福祉を発展させるNPOの役割について講演する菊池さん(手前) || 知多市緑町の市民活動センターで

日本福祉大講師の菊池遼さんは「新たなまちづくりの扉を考える」先達が育んだ『まちづくり型福祉』を発展させるNPOの役割とは」をテーマに講演。

「助け合い」が出发点だった福祉系NPOが、介護保険など多くの制度ができたことで複雑化し、方向性が見えにくくなっていることや、ボランティア型と事業型の間で板挟みになっている現状を指摘した。

また、20年ほど前に注目された「知多半島モデル」は、ベッドタウン化して外から引っ越してきた家庭の専業主婦たちが、育児や介護を通じてつながらり、地域の間支援機能を果たしたことを紹介。地域のつながりを失った今、必要なのは「福祉の殻を破ること」だとし、「社会の隙間を埋めるのが『お互いさま』という互酬性。これを取り戻す新たな取り組みが大切だ」と語った。

講演後には、参加者たちが互いに意見を交換する時間もあった。